第５回仙台国際音楽コンクール　ボランティアニュース

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION
Violin & Piano Competition

コンチェルト

Concerto
The 5th simc
Volunteer News

第５回仙台国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門:2013.5.25(土)～6.9(日)
ピアノ部門:2013.6.16(日)～6.30(日)

Vol.5-4
(2013.5.10発行　第５回コンクール関連 第4号)

インタビュー　西本幸弘氏(仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)
第5回仙台国際音楽コンクールへ向けて

コンサートマスターとしてオーケストラを率いる西本幸弘氏にお話をお伺いしました。

西本幸弘
(略歴)1984年札幌市生まれ。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業後、英国王立北音楽院に奨学金を受け留学し、首席で栄誉付きディプロマ取得。昨年10月、仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターに就任。

ロシア公演、お疲れ様でした。ロシアの聴衆の皆さんの反応はいかがでしたか？

言葉では表せないような、ロシアの方々の温かさを感じました。ロシアの方はとても正直で、コンサートの最中、各楽章が終わる度に拍手をいただきました。そして、曲の進行とともにどんどん盛り上がり、最後は全員がスタンディングオベーションとなって、とても勇気づけられました。帰国後は仙台フィルの音も変化していると思います！

大成功おめでとうございます。さっそくですが、ヴァイオリンを始めたきっかけを教えてください。

育ったのは全く普通の家庭です。ヴァイオリンを始めたきっかけは、子どもの頃テレビでオーケストラが演奏していて、コンサートマスターを見て、かっこいいなと思ったことです。どこでヴァイオリンを習えるのか分からなくて、両親が探してくれました。

イギリス留学時代の思い出をお聞かせください。

学生の時から、エキストラなどでいろいろなオーケストラで演奏していたのですが、何か違和感があり、日本をとりあえず抜け出したくなりました。本物に触れる機会が欲しくて、習いたい先生も決めずに、大学を卒業した次の月にはイギリスに旅立っていました。イギリスはヨーロッパの様々な国のエッセンスが集まっていて、程良くニュートラルで、いろいろな文化に触れられた事は幸運でした。違う国の言語を勉強して、自分がその時話している言語の感覚が音楽づくりに影響することも分かりました。私が行ったのはマンチェスターだったので、友達からはよくふざけて「サッカー留学か」と言われました(笑)。

仙台フィルハーモニー管弦楽団に着任されて6カ月。同オーケストラや仙台の印象をお聞かせください。

仙台フィルはとてもピュアなサウンドを有するオーケストラだと思います。音もとても綺麗ですし、やりたい音楽というのがはっきりしていて、素直だというのが第一印象ですね。イギリス留学から帰って１年に満たない僕が、どういう演奏をしたいか、どういう音楽を作りたいかということを温かく受け止めてくれ、家族のような存在に感じています。仙台のお客様は、私たちが素直な演奏をすると素直な反応を返してくださることが段々と分かりました。本当に良い演奏だったら爆発的な拍手を頂けますし、もっと頑張れよ、みたいな反応の時も有ります。仙台は空がとても広い、公園が多い、食べ物やお酒も美味しいです。良い環境や美味しい食べ物は本当に音楽に影響を与えますね。

ご自身のコンクールでの思い出をお聞かせください。

最初はコンクールが大嫌いでした(笑)。人に評価されることがすごく嫌だったのです。だから大学を卒業するまでは、ほとんどコンクールを受けませんでした。留学してから、コンクールに至るまでのプロセスがすごく大事だと思うようになりました。イギリス留学時、ドイツやセルビアに国際コンクールを受けに行った経験が有ります。セルビアの時は東日本大震災の直後でした。コンクール直前にちょうど帰国していて、計画停電の中で、懐中電灯で譜面を照らしながら、真っ暗な中で練習しました。逆にそれが、邪念が入らずに練習に集中できた事を覚えています。国際コンクールは、いろいろな方の演奏を聴いて、自分も演奏して、世界中の審査員から講評を頂いて、様々な角度から自分を見つめ直す良い機会だと思います。

ホストオーケストラのコンサートマスターとして、コンクール出場者をどのように支えていきたいですか？

もちろんコンクールを支えるという意味での「サポート」という言葉も大切だと思うのですが、僕はコンクールの出場者たちと一緒に音楽を楽しみたいという気持ちが一番強いです。ソロに合わせるだけのオーケストラではいけない。仙台フィルには仙台フィルの音楽が有り、そして優秀な出場者が来るので、両者の音楽を合わせて、化学反応を起こせれば良いですね。僕はコンサートマスターとして両方の部門を受け持ち、皆勤賞となります(笑)。ガラコンサートやリハーサルを含めると、ブラームスの協奏曲だけで２０回近く演奏することになります。オーケストラとしても、とても忍耐が必要なことなので、団員のモチベーションを保ったり、体力を維持することにも気を配りたいと考えています。

最後にコンクールを楽しみにしている仙台市民にメッセージをお願いします。

このコンクールには、素晴らしい才能に溢れる若き演奏家がたくさん出場します。このようなコンクールが仙台にあるということは僕も嬉しいですし、市民の方にも誇りに思っていただきたいです。会場に彼らの演奏を聴きに来てくださることはもちろん、出場者達を街全部でサポートしていけたらと思います。仙台フィルも頑張りますので、皆さんも一緒にこのコンクールを楽しんでいただけたらと思います。

帰国したばかりでお疲れにもかかわらず、快くインタビューに応じていただいた西本さん、ありがとうございました。

ボランティア各部門紹介

コンクールを支えるボランティア登録人数は、現在250名を超えています。活動は大きく4つに分かれ、部門ごとに準備、研修会などを行っています。ここでは、ボランティアの活動内容と各部門のメンバーの方からのお話をご紹介します！

会場運営サポート 127名

会場運営サポート部門の主な活動は、受付や場内案内、ドアの開閉等でコンクール会場へ来られたお客様と直接関わる活動です。
常に笑顔と真心の対応ができるように心がけており、出場者が最高の演奏をできるよう、審査委員が厳正で公平な審査を行えるよう、よりよい環境を作っていく役割を担って活動しています。
委員として活動されている八田さんに、第5回コンクールに対する抱負を語っていただきました。
「ボランティア一人ひとりが研修の成果を発揮し協力しあい、さらに職員の方たちと連携し、一つのチームとして連帯感のある活動で役割が果たせたら良いと思います。
また今回は、コンサートホールでのオーディションが無くなり、DVDによる予備審査となったため、コンクール本番で初めて会場で活動する方もいます。そこで、研修に力を入れています。研修では実際に声を出したり、ロールプレイング（役割演技）で対応を確認したり、マニュアル勉強会で理解を深めるようにして、本番に備えています。」

出場者サポート 63名

これまで「課題曲を学ぼう」「仙台を知る」をテーマにしたボランティア全部門向け事前勉強会を企画・実施、ボランティアのレベルアップを図ってきました。コンクール中も出場者の休憩、相談受付や日本文化紹介の場所として「交流サロン」を運営する他、外国人出場者の仙台滞在中の通訳、アテンドを受け持ちます。
出場者サポート部門の活動は多面的かつ広範囲にわたり、出場者を温かくもてなし、コンクールと市民を結ぶ役割を担います。
「活動はみんなで明るく楽しくやっていければいいですね。ただ、この部門の活動はあくまでも黒子、出場者が気持ちよく仙台に滞在してもらえるよう努めていきたいです。」と語るメンバーの千葉さん。穏やかなその言葉からは、ボランティアながら、プロ意識が伝わってきます。今回は、新たに「せんだい街かどスナップ写真展コンテスト」を企画して、より市民と密着したコンクールに向けて、張り切っています。

広報宣伝サポート 11名

広報宣伝サポートは、コンクール関連情報紙「コンチェルト」の企画、取材、執筆、編集、発行、コンサート会場での折り込みなどをしています。
そのほか、出場者が仙台で快適に過ごすことができるよう“MAP for the SIMC Contestants”という楽器修理店やレンタルスタジオなどの店舗情報を盛り込んだ独自の地図を日本語版、英語版で作成しています。
第５回からメンバーとなった栗林さんに活動への意気込みを語っていただきました。
「何もかも初めてですので、すべてが新鮮に感じます。先日、仙台フィルのコンサートマスター西本幸弘さんへのインタビューのアシスタントを担当したのですが、『コンクールという過酷な戦いではあっても、エンジョイするという気持ちの余裕を忘れないでほしい。』というメッセージをいただきました。私も先輩たちが築かれてきた伝統を受け継ぎつつも“楽しみながら頑張る”の精神で活動していきたいです。コンクールがとっても楽しみです！」

ホームステイ受入れ 58家庭

ホームステイ受入れ部門は、コンクール出場終了後に仙台滞在を希望する出場者のホームステイ受入れを行います。出場者が滞在中に出演するコンサートのスケジュール調整や送迎などもお手伝いし、その支援は出場者の大きな励みになっています。
今回は新しく登録いただいた家庭が多いため、経験者の方のお話を聞いたり、期間中に相談しあえるようホストファミリー同士の懇親も深めています。
「音楽という一つの共通点を通してのその出会いに大きな楽しみがあります。出場者を温かく受け入れ、少しでも居心地の良いホームステイを提供できたら」と、思いを語ってくださったホストファミリーの飯沼さん。「国も年代も経験も専門も関係なく、全てにボーダーレスな心と心の交流。そのベースにあるのはお互い“人間である”という共通点。そんな草の根交流が出来た時、きっと仙台は彼らの心のふるさとになるだろうと確信しています。」

♪編集後記♪

MAP制作も同時進行中！皆で日々工夫を凝らして完成度の高いものを目指しています。(kuri)

音楽の仕事をするのが夢でした。ボランティアで音楽の事に携われて、毎日が夢の中。
コンクールが終わるのが怖いです。(岡)

街なかでコンクールバナーを見かけることが多くなりました。３年に一度ですが、たくさんの人に「そんな季節か」と思ってもらえる風物詩になると嬉しいです(川)

コンクールの全日程のチケットをゲット。多彩な音のシャワーに出会えドキドキする高揚感を味わいたい方、予選から聴く事をお勧めします。ライヴで至福の時間がまもなく始まります。(吾)

コンクール本選も、間もなく始まります。出場者の奮闘を期待しております。(清)

いよいよ第５回コンクールが開幕します。今回もレベルの高い演奏が期待されます。みなさんどうぞお楽しみに。(松)

やっと暖かくなって、いよいよコンクールも間近！仙台中からコンクールの話題が聞こえてきますように。(戸)

発　行：　第５回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市市民文化事業団コンクール推進課（仙台国際音楽コンクール事務局） Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: http://www.simc.jp/